

発表題目（18pt、中央揃え）

B26C000 桐蔭鉄郎

指導教員 ○○○○ 教授

1. 研究背景・目的

ここに、研究の背景や目的を書く。

背景は、自分の背景（興味）でなく、

- ・社会的なニーズ
- ・従来の研究状況、問題点や課題
- ・この研究の意義（できた場合のインパクト）

などを、参考文献を交えて書く^[1]。

目的は、上記の問題点や課題を解決するために、自分は何をどこまで明らかにしたいのかを書く。

語調は、「である調」とする。「ですます調」や「～だ。」、体言止めは避ける。

2. 実験方法

ここで、上記目的を達成するための方法や原理・理論などを説明する。

その際、図などを用いてできるだけ具体的に説明する。図には必ず順番に通し番号を振り、本文から参照する。たとえば、

実験装置の概要を図1に示す。図のように、電源には、15Vの定電圧電源（メーカー、型番）を用い、...

のような感じ。

図番号は、図の下中央に配置し、図タイトル（キャプション）をつける。

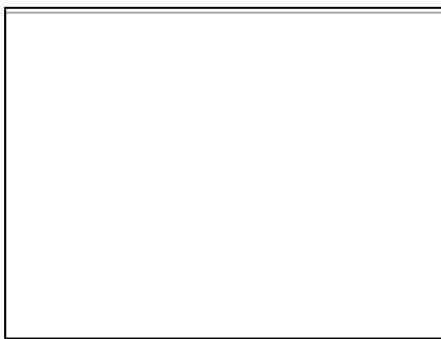


図1. キャプション

表の場合は、図とは別に通し番号を振る。また、表番号やキャプションは表の下でなく、上に配置するのが一般的である。

表1 キャプション

実験装置については、メーカー名と型番を明記し、必要に応じてその性能（諸元）を示す。

3. 実験結果・考察

得られた実験結果を書く。グラフは図とする。実験結果は、ただ示すだけでなく、わかるように本文で説明する。

また、結果に対して、信頼性や問題点について考察を行う。

4. 結論

本論文で得られた事柄を簡潔にまとめる。基本的には、研究の背景・目的で述べたことに対して、今回の結果はどうであったのかを総括する。また、それを踏まえて、今後の展望について述べる。

なお、構想発表の場合は、実験結果や結論は必要ないが、そのかわり、「今後の予定」などを書く。

今後の予定としては、「実験方法」で述べたことを、どのようなスケジュールで行うのかを説明する。

参考文献

[1] ここに、本文から引用した文献を、引用順に通し番号を付けて書く。引用していない文献は書かない。書き方は以下の通り。

[2] 著者「書名」（出版社、発行年）、参照ページなど。

[3] 著者「論文タイトル」、雑誌名、巻号、発行年、参照ページなど。

[4] URL: <http://www.foo.baa.go.jp/>

URLは、個人ページ等は避ける。